

## クラシック音楽教育

－ポーランドと日本の比較－

ワルシャワ大学、パリ・ソルボンヌ大学博士課程

ベアタ・コヴァルチック

本発表は博士論文で取り上げる問題点の一部を紹介するものであり、即ち、日本とポーランドにおけるクラシック音楽教育の比較を目的としています。博士論文のテーマは「欧州における日本人演奏家のキャリア、職業上の道・経路」であり、欧州における日本人演奏家の職業を分析し、クラシック音楽世界へ導く経路、またはそこで実際に活動する可能性を論じます。当研究は質的調査という方法で実行します。質的調査は多種多様であり、私は主に個人取材と演奏家の活動（例：コンサート、マスタークラス、夏の短期コース、リハーサル、音楽録音など）を観測する二つの方法を軸にしました。当研究はポーランドとフランスのクラシック音楽界で活動する日本人演奏家のキャリアの比較を目指します。今まで集めたデータは、ポーランドでは22人の日本人の回答者のインタビューからと、フランスでは13人の日本人の回答者の話からのものです。全てのインタビューは録音し、内容を分析しました。本発表は上述データのポーランドの部分を参考にしています。

いかなる理由で教育を論じることを問題点として選んだかという点、クラシック演奏家のキャリアでは、「適切である教育」が他の職業と比較にならない程、重要であるからだと考えるからです。調査の際出会った日本人は全員が成熟した演奏家であり、ポーランドで（ほぼ全ての場合ワルシャワにあるショパン音楽大学）の留学経験と仕事の経験を持ち、その知識を持った視点から日本とポーランドの教育制度を比較して、その長短を指摘しています。

発表の構成は、まず最初に本研究におけるキャリアの意味、即ち演奏家のキャリアの進路は人生の進路と同時に展開していくこと（楽器は人生を揺さぶること）を強調して、説明します。次に、教育とキャリアの経緯はいかなる要素で結ばれているかがどのような段階で成り立っているかという点を論じます。特に師弟関係、それに由来する「Career Coupling Process」という現象に絞って分析します。論理的な背景を紹介してから、本格的な比較に入ります。その比較のポイントは日本とポーランドにおける教育制度、初期から後期まで三段階ある教育施設とその特徴を述べます。そして、次いで日本とポーランドにおける師弟関係の特質と文化的な背景を取り上げます。上述の問題点はインタビューからの引用をもって例証します。